



義務教育学校わんぱくチャレンジスクール2024



自然との繋がりを五感で学ぶ

コミュニティ・スクール企画・運営の「わんぱくチャレンジスクール」が、11月26日（火）、旧中川根第一小学校およびその周辺で開催されました。参加したのは、町内2つの義務教育学校の1年生から6年生です。

今年は「自然との共生（自然となかよし）」を全学年共通のテーマとして設定し、発達段階に応じたワークショップを学年別に行いました。（学年ごとの活動内容については「令和6年度わんぱくチャレンジスクールワークショップ一覧」を参照）講師を務めたのは、町内で活躍するさまざまな分野の匠たち。

5年生は、町内で活動する現役猟師から、農家における獣害と森林災害との関係性の説明を受け、獣害をもたらす加害個体の駆除と再利用、自然との共生について学びました。その後、実際に鹿の精肉体験と鹿肉の唐揚げづくり、試食を行い、命の大切さを学びました。

普段はできない体験をその分野の匠から教わることで、子どもたちは「自分たちも自然の一部である」ことを学びました。



①_1年生 ハンモックでゆ～らゆ～ら。②_2年生 端材を使ってビー玉迷路づくり。③_3年生 ときどんの池で昆虫探し。④_4年生 野鳥の生態や特徴について講師のお話を聞く。⑤_5年生 野生動物の毛皮当てクイズ。⑥_6年生 森と人との関わりについての話を聞く。

子どもたちの感想

子どもたちは多くのものを見て体験し、さまざまなことを感じました。

- 1年生：ブランコ・ハンモックなど木を使ったあそびが楽しかった。
木登りで高いところまで登り枝に葉がついているのが見れた。
- 2年生：三ツ星（光の森）のお友達と交流できた！新しい友達もできた。
グルーガンを使って木で迷路づくり（熱くて怖かったけど）が楽しかった。
- 3年生：みんなと昆虫を探して知らないことを知ることができた。
仲間と協力できた。昆虫は見つからなかったけど光の森の子と交流できた。
- 4年生：野鳥を探すときに鳴き声を聞いて場所を探すのが楽しかった。
川根本町にこんなに鳥がいっぱい居るのは知らなくてビックリした。
- 5年生：鹿を捌いて食べるのは緊張したけど食べてみたら美味しかった。
獣害と命の大切さを知りました。お肉を大切に食べたいと思いました。
- 6年生：植物からリースを初めて作りましたが、講師の方の説明が分かりやすかった。
世界や宇宙にはグルグルした模様がいっぱいあることを初めて知り、ぼくの身の回りもぜひ探してみたいです。

令和6年度わんぱくチャレンジスクール ワークショップ一覧

学年	学年テーマ	活 動 内 容	講 師（スペシャルティーチャー）
1年	木と遊ぼう	木登り体験、木を利用した遊具での遊び	板谷康平さん 中道輝久さん
2年	木となかよし	いらなくなった木を使った木工工作	鈴木健二さん（ウズマキ工舎） 鈴木健二さん（鈴木茶苑）
3年	昆虫となかよし	昆虫のお話、昆虫観察	山下健さん
4年	野鳥となかよし	野鳥のお話、野鳥観察	澤本等さん 中道貴子さん
5年	動物と生きる	獣害・猟師の仕事についてのお話 ジビエクッキング	殿岡邦吉さん 渡辺実優さん 松浦あづみさん 鈴木寧々加さん
6年	森と生きる	森と人の関わりについてのお話 落ち葉の観察と落ち葉を生かした作品作り	横山慎一郎さん 横山明日香さん



わんぱくチャレンジスクールのプログラムの表紙絵は、川口航亮さんが手描きでデザインしました。



本とおもちゃでんでんこ
かわぐち こうすけ
川口 航亮 さん

この絵は、デジタルで描きました。そして、手描き感を表現したかったので、「色鉛筆」や「筆」などのモード機能を使用しました。今年は「自然との共生（自然となかよし）」という共通テーマだったため、「山から川へ、川から海へ」という大きなつながりのなかで動植物、そしてわたしたち人間が暮らしている」ということが伝わるような絵を意識しました。

こだわったポイントは、川根本町に実際に生息している生き物を描いたことです。また、あえて人間を他の生き物より小さく描いたのは、自然のなかでは人間は小さな存在だと感じているからです。一方で、実在するかどうか分からない、ちょっと不思議な動物や人も描かれています。川根本町には一風変わった大人も多く、いろんな思いを持った人たちが生み出すいろんなモノ・コト、そして空気感は、この町の面白さや豊かさにつながっていると感じます。子どもたちも、このような日常の中で、幅広い感性を磨いている気がします。そして、まだ見ぬ不思議な出来事や、これから出会ういろんな友達を、自然に受け入れる心の土壌を育てている気がします。そのようなたくさんの想いを込めてこの作品を手がけました。